

2. 漢字の力は学力の基本

昔、私の長男が、慶應の普通部に在学していた頃、父母会で、こんなお話を聞きました。

「全校生徒に漢字テストを行ったが、その結果、漢字テストの成績の良い生徒ほど、他の学科の成績も良く、漢字テストの悪い生徒ほど、他の学科の成績も悪い」

というのです。

中学生にも、そういうことがあるのを知り、私は大変面白くこのお話をうかがいました。

文章力が必要な算数の文章題

私も、小学校の教育に携っている時、漢字がしっかりと読み書き出来る子供はほとんど

例外なく、どんな学科でもよい成績を納めていることに気が付いていました。でも、最初のうちは、漢字がよく出来るほどの頭のよい子なら、なんたってよく出来るのが当たり前だ、くらいに考えていました。しかし、多くの先生方と話し合い、自分の教員生活も長くなると、漢字

力が読書力の鍵になっていることが判ってきました。

例えば、算数で、文章題の解けない子供をよく調べてみますと、決して式が立てられないのではなく、まして計算が出来ないのではありません。文章がよく読めないために、問いの意味が解らないのです。問いの意味が解らないので、式を立てることが出来ないのです。

この傾向は、社会科や理科になりますと、一層強くなります。問題を読んでやると成績がぐんと良くなり、独りでやらせると、成績がまるっきり悪くなってしまいます。これは、明らかに、質問の意味がよく読取れない、つまり、読書力の弱さを物語っていると思います。

文章を読む力は学力の基本

私は、お母さん方からよくこんな相談を受けました。

「先生、どうもうちの子は、そそっかしいので困っているんですよ。この間のテスト、あんまり成績が悪いので、私が読んでやって、やらせてみますと、ちゃんと、みんな出来るんですよ。本当に先生、こういうそそっかしい子供は、どう指導したらいいんでしょうか」

たいていのお母さんが、先生に相談しないまでも、一度や二度、き

っとお考えになったことがあると思います。でも、これは、世のお母さん方が考えるように、その子供だけが、とりわけそそっかしいのではありません。お母さんが問題を読んでやれば、問題を解く力はあるので、ちゃんと出来るのです。学校で出来ないのは、だれも読んではいけなかったもので、問いの意味が解らなくて出来なかったのです。

文章を読む力は、このように、どんな学習にも欠くことの出来ない、基本的なものなのです。

私は、今までに何回も、一年生、二年生という小さな子供を受持ってきて、漢字がしっかりと読み書き出来る子供は、どんな学科でも必ずよく出来るということを経験してきました。このことは、どの先生も認めているところです。

でも、よく考えてみれば、これは当たり前のことです。漢字の読み書きがよく出来ないようでは、他のどんな学科でも、学習をすらすらやることが出来ず、時間ばかりかかって能率が上らないわけです。

もともと、表裏一体である言葉と文字とをわざわざ切り離して、言葉を漢字と関係なく学習させています。これでは、言葉を正しく深く理解することが出来ません。これでは、本当の国語の力は付きません。国語の力のないものには、どんな学問も、その扉を開いてくれません。

人間の智慧も授けてはもらえません。私たちは、子供たちのために、まず何よりも強い漢字力を付けてやらなければならないのです。

コラム

部首 亅

本字は𠄎で、(𠄎)織機(はた)に張られた“たていと”の象徴。“たてにまっすぐに通す”意味の部首。水がわずかということで“あさい”ことを表している。今では水に限らず、“学問が浅い”などとも使う。

【徑】 “まっすぐな道”が本義。彳は行、つまり𠄎で道の象形。

【經】 亅の本義“たて糸”を表した字。縦糸は糸を代えることもつなくことも出来ない、基本になる大切な糸で、「経典」「経文」のように“大切な書物”という意味。また「経営」のように“計画”し“おさめる”という意味にも使う。

【輕】 “徑(小道)を走らすことのできる車”という意味で“徑車”が本義。“輕快な車”から、単に“輕快”。